

推薦理由

京都府立須知高等学校は、明治9年に京都府農牧学校（蒲生野農学校）として創立された145年の歴史と伝統ある学校である。また、日本の三大農業教育発祥校の一つでもあり、札幌農学校（北海道大学農学部の前身）、駒場農学校（東京大学農学部の前身）と同時期に創設され、京都府の農業教育の発展に寄与してきた。1学年、普通科2クラス、食品科学科1クラスが設置されており、地元、京丹波町唯一の公立高校であるため、京丹波町から物心両面にわたり多くの支援をいただき、地域とともに歩む教育活動は、地域の活性化に大きく貢献している。令和3年度京都フロンティア校として、地域を支える人材育成を理念に農業・食品科学の専門校として特色ある授業を展開している。その教育内容を生かして地域貢献や地域との連携を積極的に進めたキャリア教育の取組を推進している。主な取組は以下のとおりである。

(1) 農業・食品加工とキャリア形成

ア 食品科学科各コースの取組

食品加工コースでは、3専攻に分かれて農業生産、食品製造、販売流通までを学習しており、公園管理コースでは、学校林の整備や活用、愛玩動物の飼育管理についても学習している。

イ 起業家教育プログラム

中小企業庁が高校生対象に行う「起業家プログラム」に参加し、6次産業化の支援事業を行う起業家を講師として招き、地域資源を活用したビジネスの可能性について6回に渡って講義を受けた。また、京都府内で活躍する起業家の講演を通して、「チャレンジ精神」や将来の自分の進路選択や「生き方」を考えるきっかけとなるような講演会を実施している。

ウ 日本菊花全国大会 福助花壇の部日本一（国土交通大臣賞）

園芸加工専攻生徒が栽培に取り組んだ菊が、日本菊花全国大会福助花壇の部で日本一となった。地元中学校とも連携し、中学生にも菊の栽培管理の指導を行っている。

エ 全国高校生農業アクション大賞で準大賞を獲得

「ひびけ！高原の鐘 学校林活用と地域活性化」をテーマに、公園管理コースが3年間（2018年～2020年）取り組んだ研究成果が、応募78件の内、第2位に相当する「準大賞」を獲得した。

オ 各資格取得

小型車両系建設機械特別教育、食品衛生責任者養成講習会、危険物取扱者試験、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、パソコンスピード認定試験に積極的に取り組んでいる。

(2) 地域連携・地域創生とボランティア活動

ア 「京丹波学」の展開

京丹波町役場と連携し、地域の人材を活用しながら、観光・防災・食・歴史など地域の課題解決に向けての探究活動にグループや個人で取り組んでいる。

イ 京丹波食の祭典

京丹波町が例年10月に開催している「京丹波食の祭典」と同時開催で「須高感謝祭」を開催している。農産物や加工食品の販売を生徒の手で行っている。1000人近い来校者があり、学校の取組を地域にPRするよい機会になっている。

ウ 校内生産物販売会

毎月第3金曜日放課後に「販売実習」を行い、農産物や加工食品の販売を生徒の手で行っている。地域の方々からも好評で、学校の取組を地域にPRするよい機会になっている。

エ 募金活動

生徒会本部役員の生徒が月に一回、「新型コロナウイルス感染症対策応援寄付金」の募金活動を行っている。

(3) 産学連携

ア 地元の食品事業所・小売業との連携による食品・商品開発及び販売

- (有)みずほファーム・京丹波町商工会との連携：看板商品「葉酸たまご」を使った新たな商品開発に取り組んでいる。
- 丹波ワイン(株)との連携：丹波ワインを使った「赤ワインジェラート」「ワインに合うおつまみ」の商品化に成功、丹波ワインの併設ショップで販売されている。新しい味のバリエーションにも取り組んでいる。

イ 地元事業所等と連携したキャリア教育及びインターンシップ

京丹波町にぎわい創生課ならびに京丹波町産業ネットワークと連携し、毎年2月にキャリアアップセミナーと題し、2～3社を招いてパネルディスカッション形式で学習を深めている。また、京丹波町産業ネットワークと連携し、毎年3月中旬の2日間に渡り、2年生就職希望者を対象にインターンシップを実施している。11社の地元企業が受け入れている。

ウ 全国農業高校収穫祭

11月に大丸東京店で開催される「全国農業高校収穫祭」に参加した。全国各地から農業高校の生徒が集まり、自慢の生産物の販売を行った。本校からは、大納言小豆、菓子類、肉加工品を販売し完売した。普段交流することがあまりない他府県の高校生ともよい交流ができた。

(4) 学校間連携

ア 小学校・中学校・大学との連携：「環境・食育校種間連携パートナーズクール事業」「6次産業化から地域の未来を考える」をテーマに本校3年生、地元中学生、京都大学大学院生が一緒になって、農場生産物から製品作りまでを体験しながら、6次産業化について学ぶ取組を行っている。

イ 高校間連携：「府立農芸高等学校との実習交流」

須知高校で生産するヨーグルトの原材料である牛乳を農芸高校から購入することになったのをきっかけに、両校の生産実習を補完する交流実習を行っている。

ウ 丹波子育て支援センター等福祉施設との連携

毎年、高校生の指導でサツマイモの植え付けや芋掘り体験を行っている。